

新唐津市民会館基本計画策定の概要

1 策定の趣旨、目的及び背景

唐津市民会館は、昭和45(1970)年10月31日に開館して以来、本市の文化の中核施設として、地域住民の文化の向上と福祉の増進を図る重要な役割を果たしてきましたが、築50年を経て、耐震不足や設備の深刻な老朽化が指摘されています。

また、唐津市民会館と一体の施設である曳山展示場は、佐賀県重要有形民俗文化財「唐津曳山(ひきやま)」の14台を納め、年間7万人以上の人を訪れる観光施設です。近年、曳山の保存状態が懸念されるとともに、入館者のニーズに対応するために、唐津市民会館と併せて再整備することとし、新唐津市民会館基本計画を策定します。

2 策定の考え方及び論点

市民、団体、企業等と一体となって、歴史的、文化的資源、自然や景観、食、人を惹きつける物語などの「宝」を相互に繋ぎ、活用することで多くの交流を創出する観光のまちづくりを目指すこと、文化活動の継承と文化交流を促進するべく、次の基本方針にて策定します。

